

## 令和 5 年度第 2 回羽島市健幸づくり施策検討委員会（会議要旨）

日 時	令和 5 年 11 月 24 日（金） 午後 1 時 30 分～2 時 30 分
場 所	羽島市役所 4 階 第 1 委員会室
出 席 者	<p>（委員）出席者 14 名</p> <p>田中 吉政（羽島市医師会会長）、加藤 誠一（羽島市自治委員会理事）、河合 悟（羽島歯科医師会会長）、小川 徹（羽島薬剤師会副会長）、高木 豊（羽島市スポーツ協会会長）、稲葉 静代（岐阜保健所長）、山田 洋子（岐阜県立看護大学教授）、浅井 廣志（羽島市民生委員児童委員協議会会長）、鈴木 登司雄（羽島市老人クラブ連合会会長）、高砂 房子（高砂学園理事長）、森山 健（羽島市小中学校長会代表）、立花 智美（羽島市総合型地域スポーツクラブ代表）、不破 直子（羽島市食生活改善連絡協議会会長）、平岩 喜美子（公募委員）</p> <p>（事務局）14 名</p> <p>松井 聡（羽島市長）、横山 郁代（健幸福祉部 子育て・健幸担当部長）、熊崎 房子（健幸福祉部次長兼 子育て・健幸課 課長）、佐藤 久司（市民部 保険年金課 課長）、柴田 泰宏（市民協働部 スポーツ推進課 課長）、渡邊 秀樹（教育委員会事務局 学校教育課 課長補佐）、國井 真美子（子育て・健幸課 健幸担当課長）、柴田 恵津子（子育て・健幸課 健幸担当課長補佐）、赤嶺 真理（子育て・健幸課 健幸増進担当課長補佐）、中間 恵（子育て・健幸課 予防係長）、岩田 美千代（子育て・健幸課 主査）、小塚 佳良（子育て・健幸課 主査）、永田 美香（子育て・健幸課 主任保健師）、坂沙織（子育て・健幸課 保健師）</p> <p>（傍聴者）1 名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>—傍聴報告および会議の公開について説明、委員の紹介、事務局の紹介、会議資料の確認を実施—</p> <p>3 議事</p> <p>（1）元気はしま 21 羽島市第 3 期健康増進計画（案）</p> <p>&lt;質疑応答等&gt;</p> <p>委 員：糖尿病未治療で HbA1c が 7%以上である 8 人に対し、受診勧奨を実施しているか。</p>

事務局：糖尿病に関しては、現在未治療者と治療中断者について医療機関を受診するよう案内文書を出し、対応している。

委員：岐阜県では、糖尿病重症化予防の取り組みを県下で実施している。羽島市でも、特定健診の結果を医師会と共有し、手紙送付や訪問を通し、受診勧奨を行っている。

委員：メタボリックシンドローム該当者など、羽島市が県下で一番悪い数値であるものもあるが、原因は何か。以前から対策もされていたが、実を結ばない原因は何か。

事務局：メタボリックシンドロームであることが、将来的に自分の体にどう影響するか、生活習慣の改善に結び付ける事が出来ていないと考えている。より身近に考えてもらえるよう、情報発信していきたい。

委員：羽島は喫茶店が多い。1日3食に加え、喫茶店でモーニングを食べることがきっかけになっているのではないかと。

事務局：岐阜県内の他市町と比較し、羽島市は車での移動が多く、活動量が少ない状況であった。また、間食などの食べ過ぎが原因と考えている。国民健康保険加入者の特定健診結果が悪い状況であることを市民にも周知していきたい。

委員：「過去1年間に歯科健診を受けた人の割合」が15%という結果は、羽島市全部のデータではないと思う。純粹に歯科健診のみを受診する人はわずかであり、歯科治療のついでに健診を受診する人がほとんどである。歯科健診受診率がそれほど悪化しているとは思わない。歯科健診受診率を向上させるためには、受診勧奨の取り組みが必要である。

事務局：口と歯の健康の大切さを、幅広い世代に伝え、歯科健診の受診勧奨を積極的に実施していきたい。

委員：商工会議所を含め、企業と市が連携して健康に関する取り組みをしていきたい。

委員：岐阜県では75歳以上の人、羽島市では60歳代から口腔機能検査を受けることができるが、口腔機能検査の対象を50歳代までに引き下げること、また、むし歯予防のための小中学校におけるフッ化物洗口を積極的に取り入れていけるとよい。

委員：女性の標準化死亡比が脳血管疾患、糖尿病で有意に高い。

その裏付けになるデータとして、メタボリックシンドロームや高血圧の健診結果がある。日頃の健康習慣を見直し、死亡率を改善させるには、長年、時間をかけないと変わらない。今日ご参加の皆様のご協力のもと、各団体で、地域の特性として検診結果の数字を市民に周知し、市民の意識を高めていけると良い。

事務局：商工会との連携をはじめ、本日いただいたご意見を、今後の取り組みに生かしていきたい。

4 閉会